

4th IPR Frontier Seminar

生命科学における データベース統合の技術開発と課題



片山 俊明 先生

ライフサイエンス統合データベースセンター 特任准教授
阪大 蛋白質先端データ科学研究室 招へい教授

ライフサイエンス統合データベースセンター(DBCLS)では多岐にわたる生命科学のデータベースを統合化し再利用性を向上することで、次なる研究を促進し新しい知識発見につながるデータサイエンスの基盤技術を開発している。生命科学のデータは多様性に富み、複雑に連携し、かつ膨大であるため、これらを統合する新しい技術としてグラフデータベース(RDF)による統合および標準化に取り組んできた。すべてのデータを統合して利用するという研究領域は国際的にもまだ未踏の地であるが、例えば、今後10年の人類遺伝学におけるチャレンジはバリエーションが表現型に与える影響の生物学的なメカニズムの解明であるとも言われており、このためにはバリエーション・配列・発現・オーソログ・立体構造・パスウェイ・文献情報など、多様な情報の統合利用が必須である。

本講演では、DBCLSにおけるこれまでの技術開発の取り組みを概観し蛋白質研との連携による今後の展望を考えたい。

2023年1月19日(木) 16:30-17:30 蛋白質研講堂+ online (Zoom)

Zoom参加への事前登録

CLICK HERE



登録後、ミーティング参加に関する
情報の確認メールが届きます。



Contact: URA@IPR
nakayama.noirko.protein@osaka-u.ac.jp